大阪は‘まち’がほんまにおもしろい

大阪あそ歩 OSAKA ASOBO®

浪花女の命は短くて
～淀殿・かしく・お初の悲恋物語を訪ねて～

天保の大飢饉に加え、幕府や商人による米の買占めから大坂の民衆を救うために命をなげうった大塩平八郎、愛するひとの為には尊い命をも差し出す淀殿とお初。そして、自らの酒によるとはいえ実直な兄を殺めた、かしく。処刑の末期でも、女である事を忘れず油揚げで髪を梳かす様は哀れであり、そんな人々の物語を辿ります。

⑥ 太融寺

真言宗高野派。嵯峨天皇の勅願で弘法大師によって開基されたといいます。紫式部『源氏物語』の主人公･光源氏の実在モデルともいわれる源融（822～895）が中興の祖で、その名をとって寺名にしたという言い伝えがあります。境内には本堂の他に空海（弘法大師）を祀る大師堂、不動明王を祀る不動堂、淀殿の墓所（もとは東成郡鴫野村の弁財天島淀姫神社に安置されていたものですが、明治10年に城東練兵場造成に伴って移転されたもの）、雌神を祀る白龍大社などがあります。縁結びの神としても信仰を集めており、女性は白龍大神、男性は龍王大神にお参りするとよいとされています。

⑦ 淀殿の墓

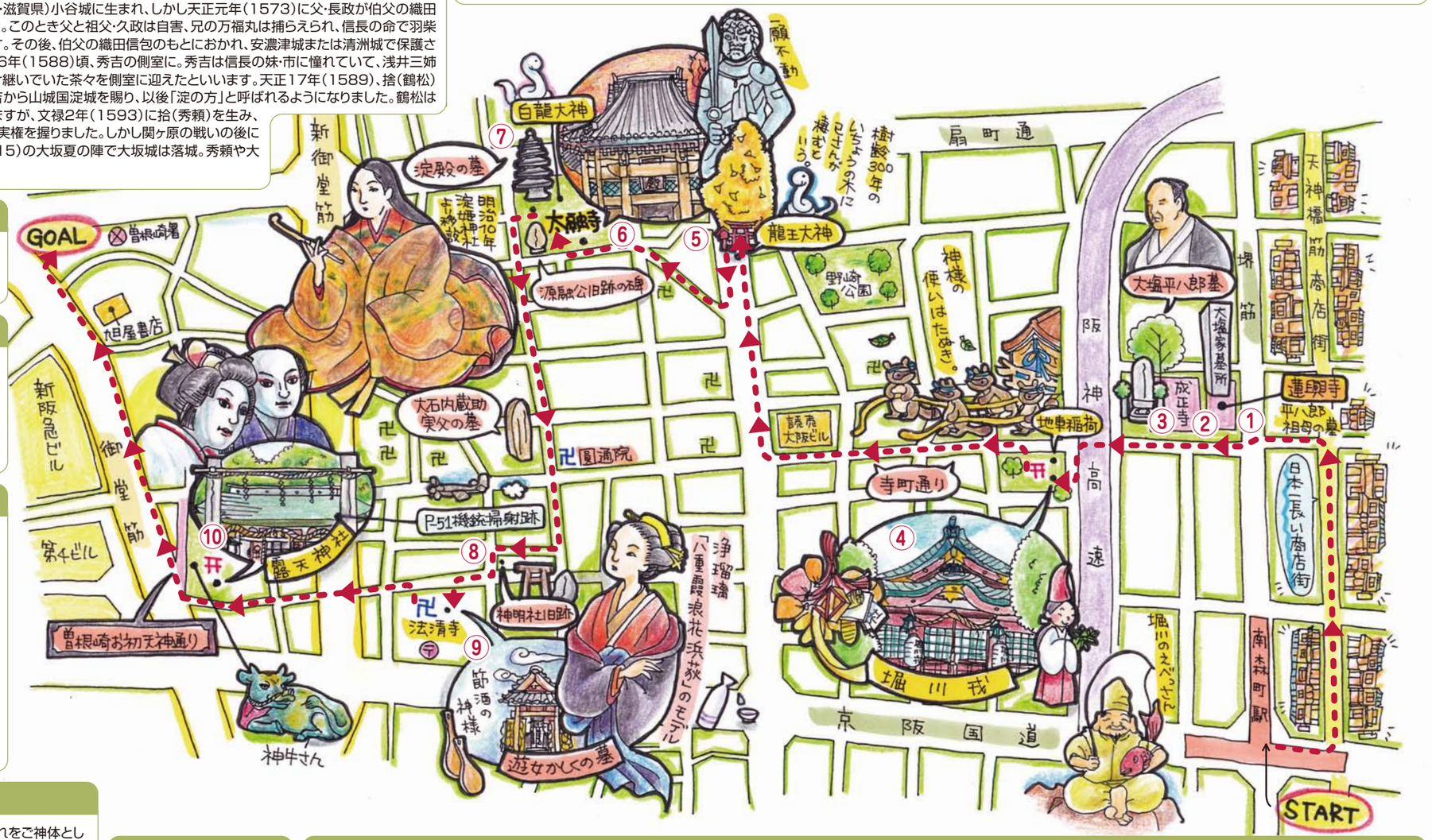
淀殿は豊臣秀吉（羽柴秀吉）の側室で本名は浅井茶々といいます。近江国の戦国大名･浅井長政の娘で、母は織田信長の妹のお市。同母妹にお初（常高院、京極高次正室）とお江（崇源院、徳川秀忠正室）がいます。永禄12年（1569）に近江国（現･滋賀県）小谷城に生まれ、しかし天正元年（1573）に父･長政が伯父の織田信長と対立して攻められました。このとき父と祖父･久政は自害、兄の万福丸は捕らえられ、信長の命で羽柴秀吉によって処刑されています。その後、伯父の織田信包のもとにおかれ、安濃津城または清洲城で保護されたといわれています。天正16年（1588）頃、秀吉の側室に。秀吉は信長の妹･市に憧れていて、浅井三姉妹の中で一番、母の面影を受け継いでいた茶々を側室に迎えたといいます。天正17年（1589）、捨（鶴松）を出産。この懐妊を喜んだ秀吉から山城国淀城を賜り、以後「淀の方」と呼ばれるようになりました。鶴松は天正19年（1591）に夭折しますが、文禄2年（1593）に拾（秀頼）を生み、秀吉の死後は豊臣家の家政の実権を握りました。しかし関ヶ原の戦いの後に家康と対立し、慶長20年（1615）の大坂夏の陣で大坂城は落城。秀頼や大野治長らと共に自害しました。

⑧ 難波神明社旧跡

平安初期の弘仁12年（821）、源融が伊勢町（今の西天満）あたりの孤島に祀られたのが始めといわれています。往時はこの地を「大神宮の北の洲」、または「神明の鼻」と称し、一帯が境内地でした。社が西に向っていたところから「夕日の神明」「夕日神社」と呼ばれましたが、明治42年（1909）の「北の大火」で被災して、現在は露天神社に合祀されています。東京芝神明宮、京都松原神明宮、京都東山神明宮、加賀金沢神明宮、信濃安曇神明宮、出羽湯殿山神明宮と当宮をもって皇国七社神明宮といわれたといいます。

⑨ かしくの墓（法清寺）

日蓮宗に属していますが創建は不明です。明治44年（1911）再建の伽藍は戦災をまぬがれています。かしくは北の新地の遊女で、日常は従順な女性でしたが、ひとたび酒が入ると人が変わって乱れたといいます。寛延2年（1749）のある日、彼女の兄が諌めたところ逆上し、あやまって兄を傷つけて殺してしまいました。かしくは死罪を申し渡され、市中を引き回されましたが、その途中「油あげ」を所望し、それで乱れ髪をなでつけて身を整えてから、斬首されたといわれています。この事件はすぐに芝居に仕立てられて評判をよびました。後になってかしくの墓石をかき取り、せんじて飲めば酒乱がなおるという風評がたち、数多くの参詣人で賑わったといわれています。



① 蓮興寺

大塩平八郎母方の菩提寺で、祖母･清の墓石があります。清は平八郎の祖父･政之丞成余の後妻で、平八郎の父･敬高の継母になります。清は両親を早く亡くした平八郎を厳しく躾け、大塩の性格形成に多大な影響を与えたとも言われています。

② 成正寺（じょうしょうじ）

創建は、慶長9年（1604）で、増長院日秀聖人の手によります。大塩平八郎、格之助親子の墓があって、大塩家の菩提寺です。江戸時代は大塩平八郎の墓は許されなかったので、明治30年（1897）になって、大塩平八郎の私塾･洗心堂で陽明学を学んだ弟子の文人画家･田能村直入によって、ようやく墓が建立されました。現在の墓は昭和20年（1945）の戦災で破損したので、昭和32年（1957）に有志の手によって復元されたものです。乱の150年後に当たる1987年に「大塩の乱に殉じた人びとの碑」が建立されています。

③ 大塩平八郎

大塩平八郎（1793～1837）は江戸時代後期の儒学者で、大坂町奉行所与力を務めていました。奉行所時代は清廉潔白な人物として不正を次々と暴き、西町奉行汚職事件では内部告発を行い、その辣腕ぶりは大阪庶民の尊敬を集めました。奉行所を辞職したあとは、自宅にて陽明学の知行合一の精神を重んじる「洗心洞」という私塾を経営。頼山陽などとも交際を持ちました。天保の大飢饉の際、幕府への機嫌取りのために大坂から江戸へ送られる米（廻米）と、豪商たちの米価つり上げを狙った米の買い占めによって、大坂庶民が飢餓にあえいでいることに心を痛め、当時の東町奉行･跡部良弼に対して、蔵米（旗本および御家人の給料として幕府が保管する米）を民に与えることや、豪商に買い占めを止めさせることを要請しました。しかし、まったく聞き入れられなかったため、蔵書を処分するなどして私財を投げ打った救民活動を実施。それでも事態は全く解決しないので、ついに天保8年（1837）に門人、民衆と共に蜂起しました（大塩平八郎の乱）。しかし、圧倒的な戦力をもつ幕府軍の前に、あっというまに鎮圧され、大塩平八郎は逃亡。数ヶ月ほど逃亡生活をしていましたが密告され、幕府軍に囲まれ、養子の格之助と共に火薬を用いて自決しました。享年45歳でした。

④ 堀川戎神社

社伝によれば、欽明天皇の時代、止美連吉雄が蛭子大神の神託によって、堀江で玉を得て、それをご神体として富島に蛭子大神を祀ったのに始まるといいます。当時は瓊見社（たまみのやしろ）･止美社（とみのやしろ）と呼ばれていました。大阪ミナミの今宮戎とともに、大阪キタの商売繁盛の神様として親しまれ、堀川十日戎は大勢の参拝客で賑わいます。境内社の榎木神社は本殿が地車（だんじり）の形をしていて、非常に珍しく、「地車稲荷」の通称で知られています。かつて、榎の大木の根元には「吉兵衛」という不思議な老狸が住んでいて、毎夜、決まった時間に地車囃子の真似をしていたので本殿が地車となっています。願いが叶ったお礼として地車の模型や絵馬を奉納する習わしとなっています。

⑤ 龍王大神

樹齢300年余のイチョウの大樹に、白蛇（巳さん）が棲むと言い伝えられています。

⑩ 露天神社

名前の由来は、祭神の菅原道真が大宰府に左遷される時にここを通過して詠んだ歌「露と散る　涙に袖は朽ちにけり　都のことを　想い出づれば」から、または梅雨のころ社前の井戸から水が湧き出たためといわれています。元禄16年（1703）早朝、堂島新地天満屋の女郎･お初（21歳）と、内本町醤油商平野屋の手代である徳兵衛（25歳）が、露天神の森で情死して、この心中事件を元に近松門左衛門が浄瑠璃『曽根崎心中』を創作。一躍有名になり、主人公のお初にちなんで「お初天神」と呼ばれるようになりました。拝殿前の石柱には、太平洋戦争で大阪駅方向から飛来したP-51による機銃掃射の跡が残されています。

【注意事項】 この地図は「大阪あそ歩」のまち歩きの資料として作成されました。まち歩きには、歩きやすい服装と靴を着用してください。車などによく注意し、各自で責任をもって行動してください。また、住宅地では住民のプライバシーに十分配慮して歩きましょう。

【お問い合わせ】 大阪コミュニティ･ツーリズム推進連絡協議会「大阪あそ歩」事務局　電話06-6282-5930（財団法人大阪観光コンベンション協会内）「大阪あそ歩」の詳しいプログラムはホームページをご覧ください。　http://www.osaka-asobo.jp　または　大阪あそ歩　でネット検索を。

大阪あそ歩のコースは約2～3km、2～3時間程度を基準として作成されています。